

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に 貢献する“Global Kawasaki”

昨年、この報告書を出して以降、川崎重工グループは、重要な指針を二つ策定し、対外発表しました。一つは昨年9月に発表した中期経営計画「Global K」であり、もう一つは今年の5月に発表した「カワサキグループ・ミッションステートメント」です。いずれも、川崎重工グループが今後どうあるべきか、何を目指していくのかという観点から、社内で長い時間をかけて議論し検討してきたものです。「Global K」が当社グループの成長戦略であるのに対し、「ミッションステートメント」は、当社グループの社会的使命やカワサキブランドの根幹にある価値観、グループ経営とグループ構成員のあるべき姿と日々の行動指針を定めたものですが、両者に共通するのは、川崎重工グループが「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」を目指していくという決意を明確にしたことです。

「カワサキグループ・ミッションステートメント」の制定

川崎重工は明治11年（1878年）の創業以来、基幹産業として日本経済とともに発展し、産業インフラを支える製品を生み出してきました。昭和41年（1966年）に制定した当社の「経営の基本理念」の第1項には「優れた製品を最も適正な価格で顧客に提供する」とあります。これは、製造業の原点として普遍的な意味を持つ言葉ですが、社会や経済における企業の影響力が大きくなった今日においては、「ものづくり」の原点を守り続けるだけでは、企業としての責任を十分に果たしているとは言えなくなってきました。

中でも状況が大きく変化したのは地球環境問題です。周知のとおり、資源の枯渇や温暖化の進行など、近年、地球環境は急速に悪化してきており、全世界をあげて早急に対策を講じていかなければ、地球自体の未来が危ういという状況にあります。例えば、温暖化問題一つをとっても、今年の2月から5月にかけて順次発表された「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）」の報告では、今のままでは21世紀末には20世紀末に比べ最大6.4℃気温が上昇し、平均気温の上昇を1990年度比で2～3℃に抑えなければ世界的に甚大な損失が生じるとしています。

こうした状況下、21世紀に生きる企業は、良い製品を作り収益を上げるという基本的な企業活動に留まらず、環境との調和を図り、社会の発展を持続可能なものとしていくことが求められています。特に、世界の基幹産業を担う企業の一つである川崎重工グループは、この人類共通の大問題の解決に取り組み、社会からの大きな期待に応えていくという、重要な責務を負っていると思います。

このほど、40年ぶりに「経営の基本理念」に替わるものとして、「カワサキグループ・ミッションステートメント」を制定したのは以上のような理由からです。

世界の人々の豊かな生活と 地球環境の未来に貢献

「ミッションステートメント」では、「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」を「グループミッション」と定め、川崎重工グループが社会において果たすべき使命を明らかにしました。当然のことですが、ここでいう「豊かな生活」には物質的な豊かさだけでなく、精神的な豊かさをも含みます。

前述したとおり、地球環境の悪化は深刻な問題ですが、同時に、新興国の経済成長は地球規模で今後ますます加速すると予測されます。環境改善のために世界的な取り組みが必要なのは当然のことですが、一方、環境保全のために、これらの国々の発展が制約されるというのも理不尽な話です。

幸いなことに、川崎重工グループには、クリーンエネルギーや環境関連の優れた技術があります。また、省エネ・省資源などの観点で環境効率の高い陸・海・空の輸送用機器も多く製造しています。当社の持てる技術力を結集し、新技術・新製品を生み出すことで、持続的な経済発展と環境保全の両立を目指す——このことは、当社にとって新たなビジネスチャンスであるとともに、結果として、最大の社会貢献になるものと信じます。

勿論、製品の製造プロセスなどを含めた川崎重工グループの企業活動自体についても、二酸化炭素や廃棄物の排出量を減らすなど、あらゆる面で「環境にやさしい企業運営」を目指していく方針です。

地球・社会・地域・人々との共生

各事業所が存在する地域社会においても、当社は、良き隣人として、地域の発展や人々の融和に尽力していかねばなりません。「ミッションステートメント」の中の「グループ経営原則」では、「事業展開のすべての局面において企業の社会的責任を認識し、地球・社会・地域・人々と共生する」と決めました。日頃行っている事業所近隣の清掃や、校外学習への協力などの地道な活動に加え、昨年、神戸海洋博物館の中に、企業ミュージアム「カワサキワールド」をオープンさせました。「カワサキワールド」は、楽しく学びかつ遊びながら、「技術の素晴らしさ」や「ものづくりの大切さ」を皆さんに実感していただきたい、との思いから設置したものです。多くの皆様にご来場いただき、大変ありがたく思っております。今後も、企業として社会との共生を目指した活動を充実させていきたいと考えています。

企業品質の向上

川崎重工グループが良き企業市民であるためには、その構成員である従業員一人ひとりの意識や行動が重要であることは言うまでもありません。「ミッションステートメント」の「グループ行動指針」の中で、「高い倫理観と優れた人格を持ち、社会と人々から信頼される企業人となる」と定め

たのは、このためです。また、中期経営計画「Global K」では、基本目標の一つに「CSR推進体制の強化による企業品質の向上」を掲げ、CSRやコンプライアンス、内部統制などの社内体制の整備を重点施策の中に織り込みました。昨年10月に、グループ統括組織としてCSR推進部を新設し、リスク管理面を含めて活動の強化を進めています。

今後も、従業員一人ひとりの自覚を高める社内教育の実施と、制度面の整備を通じ、川崎重工グループの「企業品質」をより確かなものとするべく努力していく所存ですので、引き続き皆様のご支援をお願い申し上げます。

川崎重工業株式会社
取締役社長

大橋忠晴

